

平成 21 年度 第 3 回新ひょうご子ども未来プラン策定協議会での主な発言内容

日時：平成 22 年 3 月 12 日(金) 10:30~12:00

場所：兵庫県公館 第 1 会議室

1 子どもを産み育てる

- ・ 出産直後にはうつになる場合が多いので、メンタル面での支援が大切である。
- ・ うつの問題は虐待の問題と大きくかかわっているので、ぜひ推進してもらいたい。
- ・ 命の大切さの教育は学校に求めるだけでなく、本来、親に対しても求めていくべきものである。
- ・ ほっとステーションや商店街の活性化など、様々なシステムをうまく使えば、いろいろな場面で対応できると思う。

2 子どもの成長を支える

- ・ ファミリー・サポート・センター事業は市民の間でも好評で、今後も充実していくべき。
- ・ 障害児への支援は、特別支援学校などの放課後のことも含めた対応が必要であり、市町の取り組みと深く関連しているので、サポートいただきたい。

3 豊かな人間性を育む

- ・ 心に傷を持った子どもたちを、児童養護施設も支えていくということを認識しておいてほしい。
- ・ コミュニケーション力というのはつながる力であるが、今の子どもはそれが弱く、いじめに対する反応は過敏だが解決力が大変弱い。
- ・ 都市部の子ども会では、親が世話を嫌って子どもを会からやめさすことがある。以前は、子どもがいるいないに係わらず地域の方が世話をしていたが、そういう変化が感じられる。

4 子育てと仕事の両立を支える

- ・ 職場の雰囲気を変えるため、育休をしっかりとらせる企業を県が表彰したらよいのではないか。
- ・ 男性の育休取得の推進については、企業表彰だけでなく、入札等の点数加算などインセンティブを与える必要があると思う。
- ・ 子ども会活動等で、最近親のエゴなのか、リストラに遭うので参加できないという親もいる。地域のイベントに参加できるよう気を配ってほしい。

5 “良きおせっかい社会”による家庭応援

- ・ まちづくりに関して大人が無反応であり、もっと楽しい空間を街中につくってほしい。

6 全体的な意見

- ・ 県民局単位にはいろいろな審議会等があり、そこでも地域の子育て力の向上等について議論されているので、うまく関係させる必要がある。
- ・ プランはよく出来ているが、市町や県民が知らなければ意味がない。わかりやすいダイジェスト版を作り、みんなに浸透するようにすべき。
- ・ プランの実施にはいろいろな人が関わってくるものであり、現場の人への配慮がなされないと、机上の仕組みだけに終わってしまう。